



平成十五年五月三十日発行
編集 杜寺建造物美術協議会
発行人 小西 陳雄
〒321-1431 栃木県日光市山内二二六五
(株)小西美術工芸社 内
TEL (〇二八八) 五四一―一九八
FAX (〇二八八) 五四一―一九六

ご挨拶

社団法人全国国宝重要文化財
所有者連盟
理事長 野坂元良

初代理事長・久能山東照宮
宮司松浦國男氏の後任として
昨年六月に理事長に推挙され
ました巖島神社宮司の野坂元
良でございます。

杜寺建造物美術協議会は平
成二年に発会されて以来、十
三年を経過し、この間、小西
陳雄会長等のご努力によって、
諸事業を推進してこられまし
たことに敬意を表す次第でござ
います。

全文連は昨年、法人設立十
周年を迎えることが出来まし
た。これもひとえに貴会をは
じめ皆様方のこれまでの御支
援と御協力の賜物であると心

より感謝申し上げます。

わが国の文化財保護は明治
三十年に公布されました古社
寺保存法に始まり、数多くの
建造物が保存修理をされてき
ました。しかし、近年は文化
財の保存修理をするための原
材料や技術者の確保など文化
財を護るための課題が山積し
ています。

全文連はこのことを解決し
ていくために任意団体であつ
た昭和五十七年頃から関係機
関と協議しながら諸問題に取
り組んでまいりましたが、課
題の解決には時間を要します。
特に檜皮の確保については危

機的な状況にありましたが、

最近になって文化庁、社団法
人全国杜寺等屋根工事技術保
存会と全文連のひたむきな努
力が実り、国有林の檜皮採取
が試験的ではありますが一部
認められるようになりました。

このようなことが新聞をはじ
めとするマスコミにも取り上
げられ、一般の人々にまで知
られるようになりました。

貴会は文化財保存修理では、
装飾部分にあたります彩色・
漆・鍍金具の華やかな部分を
担当されていますが、実際の
仕事の中身は華やかなもので
はなく、地味で根気のいる作
業の連続であります。したが
って若い人には敬遠されがち
であります。各事業所とも

後継者の問題には前向きに努
力をされているように見受け
ます。しかし、この他にも顔
料の問題、その他諸材料の確

保、工事の安定的な受注など
難問をかかえながらも、これ
らを解決する手段として、貴
会は毎年一回の総会と数回の
研修会を実施され、それぞれ
の分野で研鑽をつまれ、文化
財修理の一翼を担ってこれら
たわけであります。

全文連では後継者不足、材
料不足を緩和する手段として
文化財修理用資材アンケート
調査を実施しました。第一回
「檜皮」、第二回は「漆」、第
三回は「畳」の調査を実施し
報告書も刊行しています。

このうち、「漆」調査は杜寺
建造物美術協議会会員のご協
力もあつて平成十二年に報告
書を刊行することが出来まし
た。このうち漆施工業者の部
門では小西美術工芸社、さわ
の道玄、田村漆工、細川杜寺
巧藝社と日光杜寺文化財保存
会より回答を得ました。文化
財修理関係で、漆工は少人数
ですが二十代から六十代まで
平均して雇用されています。

この中で最も懸念されるのが
「漆」の外国依存度であり修
理使用の生漆は中国産が六十
八%で、漆器の輪島では九十
五%が中国産であります。一
方、生産者の回答では漆採取

技能者（漆掻き取り工）の八
十七%が五十歳以上で高齢化
が進んでいます。

以上のような回答ですが、
国宝・重要文化財の漆塗装を
国産でまかなうためにはどの
ようにすればよいのか、漆工
を養成するにはどうすればよ
いのか等問題が山積している
ように思えます。

鍍金具では旧来からの技法
の踏襲・円滑な仕事量、彩色
では彩色工の養成、顔料の確
保、円滑な仕事量など経営の
問題も含めて課題が多いと伺
っています。

全文連では各保存会の抱え
ている問題を話し合える場
所として伝統技術保存団体連
絡協議会を毎年開催しており
ます。それぞれの団体から貴
重な情報の提供や意見交換が
なされ、文化庁担当官からの
アドバイスもいただいております。
貴会も三部門の問題点を
小西会長にまとめて頂き、
この機会に発表され、文化庁
からのアドバイスを頂ければ
今後の会の運営にも役立つの
ではないかと思ひます。

全文連は微力ではございま
すが、わが国を取り巻く環境
悪化の中で貴重な文化遺産を